

2023年10月31日09時10分 配信

# 【支持率急落・岸田内閣】「岸田」という男は一体なぜ、ここまで人を無性に苛つかせてしまうのか？

藤井聡・クライテリオン編集長日記 ～日常風景から語る政治・経済・社会・文化論～

今、岸田政権の支持率が急落し、26.9%となりました。岸田政権発足以来「最低」を記録するのはもちろんのこと、自民党に対する支持率も、第二次安倍政権発足以来「最低」を記録しているようです。

で、その原因として報道されているのが、「4万円所得減税」。

何と言っても、折角国民一人あたり4万円も得する話なのに、国民の56%が支持しないと回答しているのです。これは、評価すると回答した31%を遙かに上回る水準です。

で、その理由として挙げられているのが、「政権の人気取りだと思うから」というもの。実に41%が、この減税ばなしを単なる岸田氏の保身のためのセコい話だと見なしているわけです。

そりゃそうでしょう。人付き合いをある程度しながら生きてきた人間なら、岸田氏が単なる「増税メガネ」に過ぎない存在であるのは、スグに分かります。

防衛増税ということで、法人税、たばこ税、そして所得税のそれぞれを「恒久的」に引き上げることは確定していますし、少子化対策のための「恒久的」な国民負担増も確実です。というかそれ以前にインボイス導入という事実上の「恒久的」な消費減税まで強行しています。

もしもホントに（岸田氏が口で説明しているような）税制調整を通して経済対策をするという意図があるのなら、わざわざ増税しておいて減税するというような、事務コストが超絶にかかるややこしいことなんて絶対にやりません。というかそんな事やってる奴がいたら、単なるバカです。何の意味も無い、穴を掘って埋めるような公共事業をやっているようなものだからです。

だから、岸田氏が経済対策のために減税をやるとするなら、いの一番に、10月1日に強制的に導入された「インボイス」の導入延期をやっていた筈です。そしてその上で、これから予定されている防衛増税や少子化対策のための負担増の話は「実質賃金の上昇率が一定水準に達するまで凍結する」と宣言する筈です。

繰り返しますが、こうした取組は、何の行政コストもかけないで、事実上の減税を達成させることができるのです。そして何と云っても、「実質賃金の上昇率が一定水準に達するまで」と言ってもらえることで、国民は「政府は本気で経済をよくしたいのだな」と政府を信頼することができます。

ところが岸田氏は一向にそんなそぶりも見せないで、「4万円」というセコい金額の「減税」を、一年近く先の時点で一発だけやって、それをもってして「今の物価高で苦しんでいる国民のための賃上げのための対策なのだ」と国会でエラソーに説明しています。

この人は本当に○鹿、なのでしょう。

なんで来年なんだよ。今苦しんでんだよ。

4万じゃ賃金上がんないだろ。

っていうかなんで一回だけなんだよ。賃金上がるまでずっとやれよ。

っていうかインボイスやめろよ。

っていうか防衛増税やめろよ...

と無限にツッコミがいられることがまるっきり想像できないのでしょう。

なんでこうなるのかっていうと...

これはもう、まともに他人と正面向き合っただけで付き合ったことなど、生まれてこの方一度もないからなのでしょう。

そんなことして信頼される筈なんてない、ってことすら分からない、正真正銘の阿呆なのでしょう。

「増税メガネ」って呼ばれてイラッときて、減税を口走っただけで、本気で国民のために減税しようとしているなんてことは絶対無い、ってのが、国民にもう完全にバレているわけです。

だから、過半数が減税であるにも関わらずその4万円減税に反対し、かつ、「政権の人気取りだと思っただけ」という回答がその理由のトップに挙げられるに至っているわけです。

つまり多くの国民は、総理のくせに徹頭徹尾なにもかもちっちゃすぎるその男の、保身のためだけのセコい減税ばなしに苛つき、ウンザリしているわけです。

.....

ちなみに、こうした岸田についての批評は、今回初めておこなったのではなく、筆者はもう一年以上まえからずっと深めてきているのであり、これまで何度もそれを示す出版物を世に出して参りました。

『岸田文雄は、安倍晋三の思いを引き継げるのか?——「無策無敵」は政治にあらす』

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0B6XFT4RM>

『「岸田文雄」はニッポンジンの象徴である “依存症”のなれの果て』

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0BYQZMKNK/>

ちなみに前者は、出版直前まで、

『宰相失格 岸田文雄』

だったのですが、印刷直前に安倍さんの暗殺事件があり、そのタイミングで岸田批判を徹底するのは望ましくないのではないかとということで、急遽、タイトル「だけ」を差し替えたという経緯があります（ホント、運だけはいい男、ですね）。

したがって、その中身は徹頭徹尾、岸田の凡庸さを批判する内容でありました。

その特集での主張内容は、昨年、急逝された政治ジャーナリストの重鎮、故鈴木棟一氏の次の言葉に全て象徴されています。今日の日記の最後に、鈴木さんの秀逸な一言をご紹介しますと思います。

これは、鈴木氏が主催した講演会に岸田さんを招いたときの話です。鈴木さんはまず、その講演会にて、「岸田さんの話を聞いて驚いた」とおっしゃいました。そして次のようにお話しを続けられたのです。

『何をしゃべっているか全くわからない。中身が全くない。もうどうしようもない内容だった。ここまで中身がないことを言う政治家なんてまずいない...僕は政治家に対してはいつも尊敬の念を持っている。日本のために責任とってやってもらってるんだから。でも、岸田さんに対してはそういう気持ちが全くもてない。』

これこそ、岸田文雄という人物の全てを象徴する言葉です。

鈴木氏の冥福を改めてお祈りすると共に、この鈴木氏の認識を、一人でも多くの日本国民に、一刻も早くお届けして参りたいと思います。

このまま岸田政治が後3年続けば、日本は確実に地獄に落ちる事になるのですから。

追伸：筆者（藤井聡）へのご意見、ご感想は、このメールアドレス宛てにお送りください。